

# ズバリ!! 村政を問う!



宗田 雅之 議員

- ① 新たなむらづくりの具体策
- ② 勿来浅川線の危険箇所  
の早期対策



遠藤 貴人 議員

- ① 鹿角平クロスカントリー  
コースのPRと長期的  
開発計画
- ② 有休農地の利活用



関根 政雄 議員

- ① 生活道の整備と原材  
料支給の充実策
- ② 通学と就学支援策
- ③ こどもや高齢者に優しい  
村づくりの推進策



京條 英征 議員

- ① 地方総合戦略の策定  
の現状と内容
- ② 少子化対策
- ③ 移住、定住対策
- ④ 青少年広場の現状村  
の歳時



北條 利雄 議員

- ① 行政の規範とされてき  
た村長の座右の銘
- ② 東日本大地震・原発事  
故に関する復旧復興  
の事務事業の検証

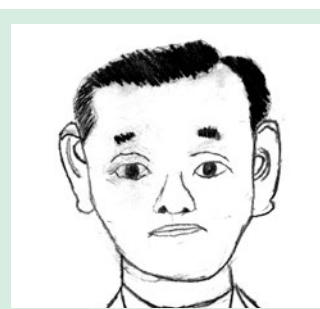


前田 武久 議員

- ① 旧鮫小跡地の沿革・  
看板設置
- ② 透析患者の支援策
- ③ 住民の所得安定向上  
策



ぼく・わたしも 議会だよりのお手伝い!!  
一生懸命書きました!



関根 英也 議員

- ① ふるさと納税の産品  
利用と使用目的による  
促進策

鮫川小学校の6年生の皆さんに村長、副村長、教育長、議員のにお絵を書いていただきました。特徴をよくとらえていて微笑ましい「感動のにお絵」です。



宗田 雅之 議員

## 問 新たな村づくりの具体策を問う

## 答 過疎計画とともに第4次振興計画の具体化を図っていく



第4次振興計画を策定する検討委員会

### 質問

第4次振興計画が策定され、今後10年間の新たな村づくりがスタートしたのだが、急速に進む高齢化対策、雇用の問題、観光資源の整備など、今後、どのようにすすめていくのか。また、地域づくりに県が補助金を交付する「地域創生総合支援事業」で採択された「里

山景観資源活用活性化資原事業」の内容と推進策を問う。

### 答弁(村長)

高齢化対策は、国や県の制度を活用して、集落環境の維持管理、買物支援、医療人材の確保など過疎計画を中心に対策を講じる。雇用については経済のグローバル化によ

り以前のように企業誘致が望めない中で、農村環境や資源の美化など、起業意欲のある若者の支援も重要である。今年度は県の「地方創生交付金事業」の先行事業として、若者に新たな雇用に創出するための事業を予定している。観光資源の整備については鹿角平観光牧場をスポーツエリアとして整備するための基本構想を策定する予定である。また、「里山景観資源活用活性化事業」により「湯の田温泉」の利活用計画を策定する予定である。

### 再質問

企業誘致が難しい中で地場産業(手・まめ・館さざり荘)などの今迄以上の研修が必要ではないか。また観光資源整備による一層の誘客を考える時、館山の景観整備と併せて、村の玄関口である強滝の整備、特に杉材の伐採による景観整備が必要ではないか。

### 答弁(村長)

「手・まめ・館」は村

の農業振興のシンボリック存在であると思う、皆さんのご意見を頂戴しながら十分な指導をしていく。強滝の景観整備に関しては、村で買い上げ、手入れする必要があるのではないかと思う。財政的な都合を考え、皆さんと相談しながら検討したい。

### 再質問

村の将来像を考える時強滝を整備することにより、館山、手・まめ・館湯の田温泉、鹿角平と観光の流れが創れるのではないかと考える、ぜひとも検討をお願いしたい。

問 勿来・浅川線の危険個所の早期対応を伺う

答 未改良区間の整備に向けた要望活動を展開していく

### 質問

現在、多くの予算を投じて内ヶ竜よりの拡張工事が完成しようとしていますが、この路線は全線にわたり狭く、早期の対応を要請しているところであり、地域住民の安全・安心、そして、村の基幹道路としても大変重要な道路と認識しておりますが、今後の対応策は。

### 答弁(村長)

この路線は、村として長年にわたって現状を丁

寧に説明し、早期に対応していただけるよう要望してきており、今年開催された事業調整会議の中で、中内地内から遠ヶ竜の未改良区間900メートルを今年度調査設計に着手しますと県から案が示された。今後もあらゆる機会を捉え、未改良区間の整備に向けた要望活動を展開する考えである。



関根 政雄 議員

# 問 高校生の通学と就学支援策を問う

## 答 保護者の皆さんの意見を聞きながら検討する

### 質問

本村の高校生の通学手段は様々であり、各保護者が毎日の送迎に苦慮している。特に白河方面の路線バスは定員が大幅に超え、事故を懸念する声もある。これらの現状を勘案し、通学の保護者の負担軽減の支援、下宿の支援策を講じるべきでないか。

### 答弁(村長)

現在は保護者負担軽減策として、奨学金制度や、村営バスの運行路線バス維持対策として定期運賃額の半額補助を行っている。

今後白河市までの直接バスの運行も含め、通学の短縮や家族送迎の負担軽減化を検討する。

### 答弁(教育長)

村長が申した事ができるなら、子ども達にとっていいのかなと考える。

### 再質問

支援策を検討する上で保護者から不満のない公正公平に欠けることのない懇談会が必要

ではないか。

### 答弁(村長)

公正公平を大事にし、できることから支援策を手がける。



通学支援についての保護者意見懇談会

## 問 生活道の整備支援、原材料支給事業の充実をすべき

## 答 原材料支給事業と中山間事業をうまく活用してほしい

### 質問

幹線道路から進入する生活道の支援策として、砂利の敷き込み、車両や機械の提供を。また原材料支給にも砂利、掘削機械、運搬車両の提供をするなど支援を拡大し、環境維持を推進すべきではないか。

### 答弁(村長)

砂利の購入は中山間事業などを活用し、受益者負担でお願いしたい。公

用車の運搬車両としての貸し出しは原則として禁止されている。当分の間は現在の事業を継続していく。

### 再質問

富田、越虫、江堀地区など村内には公道から1kmも入る村民がいる。区長を通して砂利支給などの要望が担当課に寄せられていると思うが、支給する基準はあるのか。

### 答弁(村長)

私道を赤線に変えて砂利敷をする等、高齢者の支援をする考えなので、区長を通じて相談いただきたい。

## 問 子どもや高齢者にやさしい村づくりを問う

## 答 子どもの遊び場を子どもの参画でつくる公園づくりのサポートは可能

### 質問

各地域に高齢者と子ども達がともに利活用できる交流の場「みんなの公園」を住民と協働で発案し整備してどうか。また既存公園の整備も含め

て新設公園の整備を公募してはどうか。

### 答弁(村長)

地域の要望はどの程度あるのか、維持管理はどうするのか調査検討が必

### 再質問

村内の既存公園の遊具の整備、水飲み場やトイレの閉鎖はないのか。

### 答弁(村長)

補助金を使った公園なので、トイレが閉鎖されている箇所については早急に対応する。



北條 利雄 議員

## 問 行政執行の規範とする村長の座右の銘は何か

## 答 政治政策の目標達成を目指す「誠心誠意」である



答弁する大楽村長

4期目に向かって出馬する。行政課題の目標達成のため最善をつくす。

### 答弁(村長)

8月の村長選に再出馬する意思を伺う。

### 再質問

座右の銘は公職に就き以来「誠心誠意」と掲げている。村民の代表として政治政策を目指すに当たり、誠心誠意をもって何事にも積極的にあたること。私利私欲を捨て、公正公平を私の政治信条に掲げている。

### 答弁(村長)

座右の銘は公職に就き以来「誠心誠意」と掲げている。村民の代表として政治政策を目指すに当たり、誠心誠意をもって何事にも積極的にあたること。私利私欲を捨て、公正公平を私の政治信条に掲げている。

### 質問

村長として3期12年間で、まもなく満了し、本村の最高行政執行責任者として多くの行政課題に取り組み、村民の命や生活を守る行政施策を展開されてきたが、活動の原点となり、行政執行の規範とし、その礎となる座右の銘を披歴願う。

## 問 原発事故の復旧復興の事務事業の検証を伺う

## 答 検証を行い今後の復旧復興に生かし最善をつくす

### 質問

東日本大震災・原発事故に関する復旧復興の事務事業は、関係機関の努力により一定の成果をあげているが、今までの事務事業の検証を行い、今後に生かすべきである。次の4点について伺う。

1. 汚染土壌の仮置き場、仮設焼却炉の実施過程で、地権者との同意や契約行為などの行政手続きが適正に処理されたと思うが、どのような手続きや関わり方で合意形成がされ、事業執行がされたのか伺う。

### 答弁(村長)

仮置き場は、線量が高い青生野地区の除染廃棄物の処理保管と学校の汚染土壌の保管のため当該地区の総会に提案され、地権者と周辺住民への説明会を開催した。同意の署名押印を得て事業を開始した。仮設焼却炉の建設は、住民の合意形成に環境省と説明を続け、農林系汚染廃棄物などを処理する

れ、協議期間中は時効停止となる。

### 再質問

賠償項目は複雑多種にわたる、自治体が体制を組み支援をすべきである。

### 答弁(村長)

特例法の施行もあり、自家消費野菜の賠償請求支援を検討する。

3. リアルタイム線量計の日々の数値は、日常生活の上で安全安心を担保する。データの管理はどの機関が行い公開されているのか伺う。

### 答弁(村長)

空間線量の監視のため、公共施設を中心にモニタリングポスト、リアルタイム線量計などで測定し、毎日情報を更新公開している。データは、原子力規制庁で管理している。

### 再質問

情報公開の閲覧方法を周知すべきである。

### 答弁(村長)

具体的な閲覧方法を広報紙で周知する。  
4. リアルタイム線量計が学

校やトレーニングセンターなどの施設に2台設置され、その後1台が撤去された。どのような経過か伺う。また線量計が設置されていない施設の対応を伺う。

### 答弁(教育長)

文部科学省が整備したリアルタイム線量計は、当初に鮫小、青生野小、トレンに設置されたが、測定機器の精度に不備があり、契約解除などで訴訟問題に発展。その後、再度入札により追加設置され、システムが複数設置の状態であった。業者の破産開始手続きにより撤去された。次に線量計が設置されていない施設の対応は、近くの線量計の数値を参考とし、さらに移動式機器での測定を行ってきたが、数値が低位で安定したため測定を中止した。

### 再質問

低線量でも測定やデータ管理が必要。検討すべきである。

### 答弁(教育長)

線量測定やデータ管理方法を検討する。



遠藤 貴人 議員

# 問 クラインガルテン(農地の賃貸制度)による有休農地の利活用策を問う

# 答 県の地域創生総合支援事業で、クラインガルテンの整備計画を予定している



有休農地の活用が期待される貸農園制度

### 質問

農業者の高齢化に伴い、有休農地が増加傾向にある今こそ、農地の賃貸制度(※クラインガルテン)による有休農地の活用を推進すべき。若い人とお年寄りが手を組み、延いては定住人口増加のきっかけになると考えるが。

### 答弁(村長)

村では三つの農地の賃貸制度を考えている。

### 【農家民宿型】

農家民宿と集落内の有休農地を組み合わせたも

ので、農家民宿に定期的に宿泊してもらい、集落内の有休農地を借りて定期的に農作業を行うもの。

### 【集落型】

集落内の集会所や空き家を活用し、有休農地で定期的に農作業を行うもので、集落内で相談し、集落内に簡易宿泊施設を整備し、集落管理で年間貸し付けを行うもの。

### 【集団農地活用型】

阿武隈開発などで大規模に整備した農地を活用し、農地付き簡易宿泊施設を村で設置し、地元が

指定管理者となって運営する方法もあるが、規模によっては地域や集落が事業主体となったり、新たな事業主体を作ることもある。

### 再質問

クラインガルテンはここ数年で急激に普及してきている。利用者である都市住民との交流が活性化することによる地域づくりと、利用者が定住に結びつく効果が絶大である。また若い世代、女性、子どもの自由な発想を取り入れるために、村民参画の話し合いを設けることも大事であると考えているが。

### 答弁(村長)

コンサルタントに丸投げすることは考えていない。ただ福島大学の指導を受ける計画はある。村で野菜や果物を作ることによって農業の素晴らしさを消費者が自ら体験できると考える。

## 問 クロスカントリーコースを有効に活用するためのトラック競技場計画を伺う

陸上競技トラックの整備を含む「鹿角平スポーツエリア基本構想を策定する」

### 質問

鹿角平観光牧場に※クロスカントリーコースが完成したが、これを有効活用するためのトラック競技場の基本方針と今後の計画を伺う。

### 答弁(村長)

第3次振興計画でも、鹿角平をスポーツエリアとして整備することが計画されていたが、第4次振興計画の重点構想でスポーツ合宿エリアとしての整備が基本施策として計画している。

### 再質問

本村の近隣でも同様の施設が出来つつあるが、他のクロスカントリーコースと競合するのではなく、福島県パージョンで誘致や宣伝を働きかけていく事も一つの方法であると考えているが。

### 答弁(村長)

夏場の暑い時は鮫川で、平常時は平場などで、他のコースと一体となっており組んで行きたいが、大威張りではないので、正式な競技を持ってこられるようなコースにしていく。

### ※クラインガルテン

ドイツが発祥の地で農地の賃貸制度。日本語に訳すと「小さな庭」や「市民農園」とも言われ、有休農地の活用、市民の余暇の楽しみや子ども達の自然教育の場としても役割を果たしている。

### ※クロスカントリーコース

丘陵地や山林を活用し、整備した陸上長距離ランナーの練習と競技コース。近年は自然環境を生かした特色あるコースが全国各地に整備されている。



京條 英征 議員

## 「鮫川村総合戦略」策定の現状と 骨子は何かを問う

問

答

### 第4次振興計画を踏まえたものにし、 今年中には完了したい

質問

国は昨年末に、人口減の克服と地方創生を目指す「長期ビジョン」と総合戦略」を策定、同時に各市町村も人口減を見据えた「地方版総合戦略」の策定が努力義務となった。その策定の現状と骨子は何か伺う

鮫川村の「総合戦略」

は今年中には完了したい

と考えている。

「鮫川村の仕事づくり分析、企業誘致の可能性の分析、ふるさと回帰分析、内発的仕事づくり分析」など、調査や分析が必要である。第4次鮫川村振興計画は、国が指す地方創生の目的や理念とも合致しており、それを踏まえたものにし、と考えている。

問 少子化と子育てについて所信を伺う

答 安心して産み育てられる環境づくりに取り組む

質問

少子化対策で必要なのは「子育て」だけではなく、結婚から子育てまで切れ目のない支援が欠かせないと考える。

これまでどのような支援策を講じてきているか伺う。

鮫川(村長)

過疎の本村としては特に大きな問題だと思っている。平成22年から26年まで

問 次は定住策について村長の所信を伺う

答 帰郷や移住を促進する

質問

空き家と農家民宿の対策に当たる地域おこし協力隊の目的は何か。

人口がいくら減ろうとも、未来の子供たちに、鮫川大好きといえるよう

「豊かな、暮らしやすい鮫川村」として残す義務

がある。

そのための基本的な構想と課題は何か伺う。

鮫川(村長)

「空き家の現地調査」「台帳の作成」「移住情報・整理・発信、受け入れと移住後のケア」「交

問 青少年広場の現状と村の行事について問う

答 将来的には暗渠排水や表土の入れ替えも検討したい

質問

雨の後などは、利用するにふさわしい状態ではない。グラウンドは軟らかく、幾筋も水の流れた跡があり凹凸である。管理の問題か排水など構造の問題か? また小童まつり、盆踊り、相撲大会、駅伝など開催に苦労している

無くなるのは簡単ですが失うものも多いと思う。継続して行く事を前

提に支援出来ないか。

鮫川(教育長)

普通の雨の後であれば支障なく使える状態だと思う。将来的には、暗渠排水や表土の入れ替えも検討して行く。

文化・伝統を継承していくためにこれまでも助成しておりますが、今後継承して行けるよう支援して参りたいと考えている。



整備が望まれる鮫川村青少年広場

流事業に関する活動」などである。基本的な構想、課題であります。「鮫川村とながりのある人々、歴史や伝統・文化とながりたい人々の帰郷や移住を促進する」ことを重点構想とし、「村民が世代を超えてつながり支え合い、ひとり一人が輝く村づくり」が課題である。



前田 武久 議員

## 問 透析患者への通院支援を充実すべき

## 答 関係病院と交渉したい

**質問**  
村は重症患者への交通費給付をしているが、病院までの交通手段に困難を生じている方が支援を求めている。行政支援を考慮すべきと思うが考えを伺う。

**答弁(村長)**  
人工透析患者の通院交通費補助事業を実施し、月額3万円を限度に、5千円を控除した額を助成している。

**再質問**  
交通費の助成は承知しているが、透析されている方は身体機能が困難で自家用車を運転し、病院までの通院が大変である人が大勢である。埴厚生病院へは自己通院しているが、白河方面は病院が送迎している。白河と同様な行政支援を講じるべき。

**答弁(村長)**  
現在13人の方が通院され、埴厚生病院には10人が通院されている。送迎について病院にもお話をさせていただく。

## 問 旧鮫川小学校跡地への沿革、由来の看板設置をすべき

## 答 教育委員会に凶り、検討する。

**質問**  
明治12年西野小学校分校として赤坂中野新宿地内に設立以来、幾たびの変換を重ね、昭和33年まで、多くの卒業生を送り出しており、思い出の深い貴重な場所である。史跡としては誠に寂しい限りであり、看板の設置または記念碑の建立など考えてはいかがか。

**答弁(教育長)**  
心のよりどころとなる記念碑はあることが望ましい。手順もあるので教育委員会で意見を聞き意向に添いたい。設置予定場所は村の公園になっており、予算条件が合えば計画的に進めることができる。

**再質問**  
ふるさとを離れ、鮫川村に帰省された方、現在村に住んでいる方も、若き頃の学舎を思い出するたびに心が安らぎ癒される



旧鮫川小跡地の中野八幡神社境内付近

場所である。前向きな姿勢で看板設置又は記念碑などの実現を図っていたきたい。教育委員会で検討されるとのことだが、具体的にいつ頃か。

**答弁(教育長)**  
今度開かれる教育委員会に凶り広く意見を受けたい。

## 問 住民の所得安定向上の施策を問う

## 答 鮫川村総合戦略の過程でも検討する

**質問**  
村に定住、安定した収入を得られる施策が急務と思われるが如何か。利便性の高い幹線道路沿いの敷地造成の受け入れ体制が必要であり、就労の場の確保のため、積極的な誘致活動を図るべきと思うが。

**答弁(村長)**  
利便性の高い幹線道路沿いの敷地造成も企業誘致の選択肢のひとつに違いないが、近隣町村の団地とは立地、誘致条件では太刀打ちできない。長年交流事業で地道に進めてきたが、残念ながら実現に至っていない。村では現時点で企業誘致、敷地造成の考えはない。

**再質問**  
旧泰斗跡地は企業誘致を目指すことで買収を図った。県企業局への斡旋依頼についての状況は。

**答弁(村長)**  
まだ1件の紹介もなし。

**再質問**  
温泉開発による周辺の活性化、集合店舗などによる雇用対策は第4次振興計画には示されていないが、今後4期目を指すことを表明した村長は「雇用対策と所得安定対策」を考えていると思うがその所信は。

**答弁(村長)**  
湯の田温泉の利活用と「手・まめ・館」を中心に新しい商品の開発など、企業に選ばれるように4年間しっかりと取り組む。



関根 英也 議員

問

ふるさと納税の現状と推進策を問う

答

村の取り組みを理解していただき、納税者を増やす努力をする

質問

ふるさと納税について村は納税者に対してどのような呼びかけ、その成果はあったのか。また納税された金をどのように使われてきたのか。納税額を上げるためにどのような工夫してきたのか伺う。

納税の使用目的が数多くなると、ひとつの事業に振り分けられる金額が少なくなり、成果が見えにくい。次策に関心が少なくなる。この納税

答弁(村長)

この制度は「応援したい・貢献したい」と言う自治体に寄付した場合に、その相当額が所得税や住民税から控除されるもの。本村では村づく

制度についてはより多くの方々に感心を持っていただくために、用途や成果を広報さめがわ等で納税者にも報告し、継続して納税していただく事が大事であると思うが村長の考えを伺う。



納税返礼品としての村特産品ギフト

- ① 自然環境の維持、保全及び整備に関する事業
  - ② 特産品の育成及び整備に関する事業
  - ③ 高齢者の生活を支援する地域づくりに関する事業
  - ④ 教育歴史文化の保存に関する事業
  - ⑤ 子育て支援などに関する事業
  - ⑥ その他村長が必要と認める事業
- 次に寄付金については「鮫川村ふるさと基金」として積み立てている。本基金からはこれまでに「さざり荘」の整備事業に300万円を取り崩し活用した他、寄付された方の意向により、8万円を小学校の図書購入費用として活用させていただいた。基金の残高は平成26年度の残高で2910万円となっている。

鮫川村ふるさと納税返礼品

1万円以上寄付された方には御礼として、特産品を含めたギフトセットを「手・まめ・館」より送ります。

- 1万円以上 3000円の特産品セット
- 3万円以上 5000円の特産品セット
- 5万円以上 10000円の特産品セット
- 10万円以上 20000円の特産品セット

返礼品は村の特産品をPRするという観点から「村内にお住まいの方以外の寄付者」にのみ送付となります。

再質問

納税者の返礼品については、平成26年度にギフトセットの内容の見直しを図り、金額の幅を広げることにより寄付者への優遇を図ると共に、村のガイドブックを作成し、より感心を持っていただけるように取り組んでいます。

答弁(村長)

寄付者は賢くなつていてホームページで閲覧している。福島県内でも1億円も集まったという町もある。

きれいな村づくりで生まれた農産物や農作物は村の自慢である。大玉村の向山製作所は本村のゴマを原料として数多い加工品を開発し、全国でも有名である。こうした足掛かりで鮫川村の取り組みを理解していただき、農業の振興、農産物の作り、納税者を増やす努力をする。



# 追跡!

## 第1弾

過去に、行われた一般質問の結果を検証します。

# どうなったっぺ?

## あの一般質問

### 質問・提言

村民スーパーマーケットの開設は、村内の中心街の活性化や高齢者の買い物支援に不可欠な施策。

平成24年9月定例議会

### 答弁

中心街の空家、空洞化や高齢者や村民の動向調査をし、商工会と協議しながら検討する。

### 結果

中心街の要望や関係者のワークショップを経て、国の買い物弱者支援事業と村の助成、村民の支援金により、商工会が運営し開店することができました。



年々利用率が高まる、村民の店「すまいる」

### 質問・提言

村内の有休農地を利活用して、農地付分譲、貸農園をし、交流と定住人口を増加すべき。

平成27年3月議会  
平成27年6月議会

### 答弁

農業関係者や地権者と相談の上、担い手育成と有機の里づくりの観点により検討し、計画をする。またクラインガルテンも計画する。

### 結果

今年度より有機の里づくりを推進し、新規就農者育成や交流人口と定住人口の確保を目的として具体的な調査研究や先進地視察も行われます。



貸農園や就農交流の核となる堆肥センター

### 質問・提言

クロスカンントリーコースの開設に伴い、鹿角平観光牧場の総合開発と競技用トラックの併設が必要ではないか。

平成23年3月議会  
平成26年12月議会  
平成27年6月議会

### 答弁

鹿角平観光牧場の高原の景観を守り、観光スポーツエリアとして、管理棟の整備、コテージの建設、競技場の整備、運動場の整備、展望施設の整備も検討する。

### 結果

平成26年度末には2棟のコテージが完成し、6月にオープンしました。また今年度は観光スポーツエリアとしての総合開発計画が策定されます。



観光スポーツエリア内に新設された宿泊施設

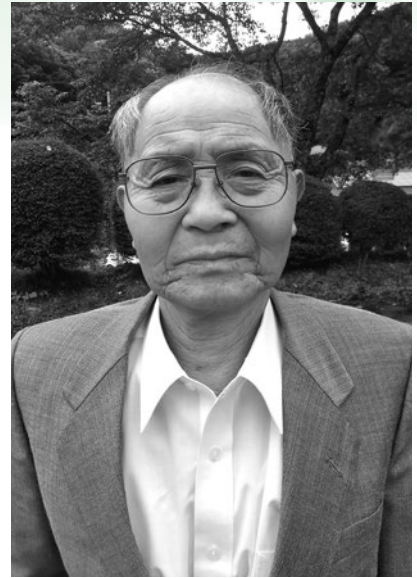
※議員提案の「一般質問」は「政策提言」ができる唯一の議員の質問の場となります。ただし費用対効果や予算組の諸事情により事業が行われない場合もあります。今後も引き続き「追跡レポート」を継続していきます。

# 村民の広場

村民の皆さんに信頼され、身近な議会づくりを目指すために、子ども達をはじめとする村民の皆様にご登場していただくページです。

## 議会傍聴記

### 堂々の質問、丁寧な答弁に深く感銘



蛭田 吉郎さん  
(渡瀬・田野上)

今年の4月に村議会議員が改選され、初議会が6月9日に開会されましたが、その際に議会傍聴をさせていただきました。

この日は会議録署名議員の指名と会期決定、そして一般質問に入りました。再選議員が3名、新人議員が4名が質問席に登場いたしました。傍聴人も10余名おり、議会への感心の高さが伺われました。さて村民の審判をいただきたいからの鮫川村の方々が、どんなことを考え、どんな働きをしたいのか「一問一答」

を聴き入っておりますが、いずれの議員も真剣に村を思い、地域住民を思い、己の立場をわきまえて、堂々と発言しているのに感銘を受けました。対して村長の答弁も、一つ一つの質問に対し、丁寧に「各議員とよく話し合い、ご協力を得ながら執行にあたりたい」と力強い答弁をされており、両輪がうまく噛み合い、この先が期待できるものと感じた議会でした。どうか村長はじめ、議員の皆様、健康に充分留意されましてご活躍されますようお祈り申し上げます。

## 私の夢シリーズ①

### 大好き! 青生野小学校

澤口 琴音さん (青生野小6年生)



私が通っている青生野小学校は山々に囲まれた緑いっぱいの学校。子どもの数は1年生から6年生までを合わせても13名と少ないですが、私にとって自慢できる大好きな学校です。なぜかという、少ない人数の学校にしかできない、楽しい事や、うれしいことがたくさんあるからです。例えば全校で毎年行く宿泊学習はみんなの力を一つにしてやりとげる体験ができるのでとても楽しみにしています。「あったかおいしい農園」で大切に育てた大豆を使って、豆腐や味噌をつくる体験です。地域の方に

大豆の育て方や、豆腐や味噌の作り方を教えてもらえるし、できたものを売り、みんなに喜んでもらえるからです。

授業でも理科や英語、コンピューターなどの専門の先生に習ったり書写や道徳、保健などをいろいろな先生と学んだりすることができます。そして先生方がやさしくていねいに教えてくださるので、勉強がよく分かるようになってうれしいです。

冬は雪がふれば、みんなでかまくらを作ったり、雪山ですべて遊んだりします。青生野の冬はとても寒いですが、楽しくすごしています。

このように、私は大自然に囲まれた「青生野ならではの活動」に毎日取り組んでいます。卒業まであと9ヶ月、私は大好きな青生野小ですてきな思い出をたくさんつくりたいと思います。

## ふるさと鮫川への想い シリーズ⑰



**鍋木 政彦さん**  
(大字西山字馬生田出身)  
福岡県福岡市在住

### ◆プロフィール

【生年月日】 昭和40年12月20日  
昭和59年 福島県立白河高等学校卒業  
昭和60年 東京外国語大学外国語学部  
ドイツ語学科入学  
平成1年 同大学卒業  
平成2年 東京大学大学院法学政治学  
研究科修士課程入学  
平成4年 同研究科修士課程修了、  
同研究科博士課程進学  
平成8年 同研究科博士課程単位取得  
退学、学術振興会特別研究員  
平成11年 東京大学大学院法学政治学  
研究科より博士(法学)を取得  
平成12年 九州大学大学院比較社会文  
化研究院 助教授  
平成23年 同大学同研究院 教授  
(現在に至る)

【家 族】 妻と娘の3人暮らし  
【趣 味】 小説を読むこと、  
ドラマを見ること

私は鮫川に生まれ、東京での学生生活を経て、九州の大学で政治に関する哲学や思想を教えたり、研究しています。今年の10月で、福岡に赴任してまる15年を迎えます。思い返してみれば、高校のときにはすでに白河に下宿をしていたので、鮫川にいたのは15歳まででした。鮫川で暮らした月日と、福岡での月日が同じ長さになるとは、なんとも不思議な感じがします。

福岡はよい街ですが、どんなに長く暮らしても、異郷の地にあるという実感はなくなりそうもありません。福岡から鮫川に帰るの日は一日がかりですが、いまでも実家に戻ったときが、一番ほっとした気持ちになります。昔と変わらず名前前で呼んでくれる人たちがいて、あまり変わりすぎない風景があつて、自分の根っこにあるものに帰ることができるように感じます。

こんなふうに実感できるのも、鮫川村が鮫川村であり続けてくれるおかげなのだと思っています。平成の大合併で、多くの自治体の名前を変えました。学生時代、東京の「保谷市」というところに住んでいましたが、いまでは「西東京市」という名前に変わってしまいました。馴染みのない名前前で、自分が暮らしていた時間や空間がどこかへ行ってしまったような気がします。

人口減少や自治体消滅が話題になる昨今、鮫川村もさまざまな困難な課題に取り組んでいることと思えます。九州では東北の位置関係すらあやふやな人も多いくらいなので、福島出身といえど「フクシマ」のイメージばかりで、今でも心配されたりします。そんなご時勢の中、住んでいなければわからない震災の影響や苦労もまだまだあるのではないかと思えます。しかし、今回、議会だよりを拝読し、子どもも議会をはじめ、数々の積極的な取り組みをしていることにたいへん心強く感じました。

代が変われば世が変わるといいます。自分がいた頃とは違う鮫川になっていることと思えますが、私にとってそうであつたように、これからも、鮫川で成長する子どもたちにとって、鮫川村がかげがえのない場所であり続けられるよう、心より願っています。

議会だよりの新たな4年間の編集のテーマは「子ども達と村民の参加」です。村民の皆さんに「読んでいただける広報紙」を目指して頑張ります。



新体制で張り切る広報編集委員

### 編集後記

地方消滅といったあまりにも大きな課題の真ただ中に、鮫川村議会議員に5人の新人が誕生しました。

「初の定例議会、足はガクガク、身体はブルブル、声はうわずり原稿は飛ばし…。議会の後の懇親会で一気に取れた高い垣根。」これは新人議員の声。

「力を合わせ村民のためにみんな汗をかこう…」これは全議員の声。4人の新人議員も編集委員となり初の議会だよりの発行です。

厳しい中にも暖かい眼差しも向けていただければ嬉しい限りです。  
(編集委員)

私達が編集発行します